

宗岡二中だより 4月号



令和6年4月8日

自ら学び考える生徒
学校教育目標：心豊かな優しい生徒
明るく元気な生徒

やさしい言葉 なごやか笑顔 ひだまり挨拶

校長 伊藤大輔

令和6年度が始まります。“新生宗岡二中”の出帆です。私は昨年度に引き続き、本校校長2年目となりました。今年度もいろいろな面で、家庭・地域の皆様のお知恵をお借りすることがあると存じます。本校教育の発展のため、そして生徒のよりよい成長のためご尽力いただければ幸いです。

さて本号の標題は本年度のキャッチフレーズとしました。この言葉に込めた思いを以下に述べます。

やさしい言葉

人は言葉をもつ唯一の動物です。言葉で考えます。言葉で悩みます。言葉で表現します。学習においても何よりもまず言葉の力が付くように、言葉の力が機能するように支援します。私の懸念は各自がこれまでに蓄えた言葉の使い方です。人と交わす言葉の使い方です。さらに正確に言うと言言葉に乗せる気持ちのことです。その気持ちの交流がぎすぎすしていると思う場面に時折出くわします。誰かに投げかけたときにしっかりと受け止めてもらえる、そして自分を労わり育てる「やさしい言葉」を広げます。

なごやか笑顔

笑顔は相手をなごませる感情表現です。表現は英語でexpressionと言います。元の意味は表に出すことです。そういう意味では顔の表情はもちろん、服装や姿勢も表現です。しかし「制服やジャージを着崩す」「教室や廊下で必要以上に大きな声を出す」「だらしない姿勢で座る」といった行為は周りを不快にする表現です。表現次第で周りの人が抱く感情は変わります。ところで本校の多くの生徒は屈託ない笑顔の持ち主です。素敵な笑顔だなあとしみじみ思いま

す。おもんばかりの気持ちなくして、こうした笑顔は生まれません。相手を不快にさせないための想像力を鍛え、誰もが快い（こころよい）感覚に浸れる「なごやか笑顔」を広げます。

ひだまり挨拶

挨拶は相手を認め、敬意を払う所作(しよさ)です。「おはようございます」「ありがとうございます」「さようなら」・・・挨拶は「いつもあなたを気にしているよ」というメッセージです。そして挨拶する相手は人とは限りません。「いただきます」「ごちそうさま」・・・手を合わせて唱える相手は私たちの命の源です。言われた相手の心だけでなく言った自分の心も温める「ひだまり挨拶」を広げます。

「やさしい言葉 なごやか笑顔 ひだまり挨拶」は理想ではありません。本校がめざす学校像を叶えるために取り組ませる実践です。まず行動を起こし、行動を重ねることで頭と心を鍛えます。今の宗岡二中の生徒ならばやり遂げられると期待を込めて示したものです。折に触れて見届けます。

学校は保護者の皆様にとってかけがえのない大切なお子様をお預かりする場です。学校の主人公は一人一人の生徒です。しかし、生徒はお客様ではありません。あくまでも鍛え、磨くべき存在です。このことを共有していただきたく存じます。腫れ物に触るような、また甘やかすようなことは本校ではいたしません。厳しさと慈しみをもって今年度の指導に臨みます。中学校は今・ここで学ぶ生徒が、今・ここよりも一歩先の社会に出たときに自立する力と感度を付ける場です。しかし皆様からの後押し無くしてこの営みは成し得ません。一年間の長旅に寄り添っていただきますよう、心よりお願い申し上げます。